

JA 北越後営農情報 No.10

平成 30 年 8 月 16 日発行



**台風予報が出たら→できる限りで湛水
大雨で浸冠水した場合も速やかに排水できるように備えを！
！安全確保のため、ほ場施設の点検は大雨・強風が収まってから行いましょう！**

☆収穫前のポイント



①雑草の抜取り（特にクサネム！）

②収穫適期早見表(裏面)で
刈取り予定を立てましょう！

③機械の確認・メンテナンスをしましょう！

必要箇所への注油や刃の点検など余裕をもって作業を始められるようにしましょう。



☆収穫のポイント



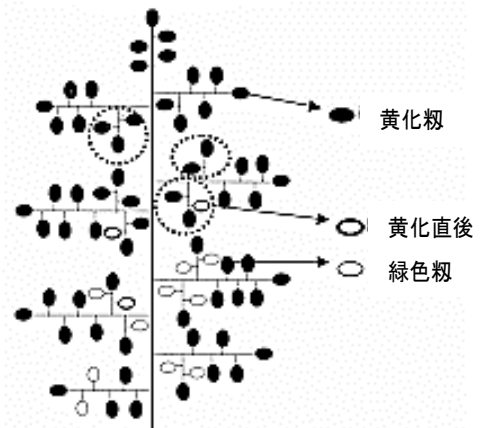
①籾黄化率 85～90%で
収穫開始！（右図を参考に）

②刈取りは朝露が乾いてから！
濡れたままで刈ると詰まりや選別不良の原因に

③こぎ深さを確認しましょう！
適切なこぎ深さで収穫ロスを減らしましょう！

④収穫後は速やかに乾燥機へ！
生籾は変質しやすいので放置厳禁！

刈り取り適期
(籾黄化率 85～90%)



* 登熟後半が高温条件となって籾水分の低下が早く、立毛胴割れの発生が懸念される場合は、収穫開始を2日程度早めましょう。

* 早刈りした籾は高水分であるため、短時間でも収穫したまま放置していると変色した「ヤケ米」になり品質が著しく低下します。収穫後速やかに乾燥作業を行うことができるように、計画的に作業しましょう。





PICK UP! 「コンバインのこぎ深さ」

「こぎ深さ」とは、脱穀部（こぎ胴）に入る藁の長さのことです。
「こぎ深さ」が深すぎるとコンバインの所要動力が増加したりゴミの混入が増加
「こぎ深さ」が浅すぎる→こぎ残しによる穀粒損失（ロス）が増加

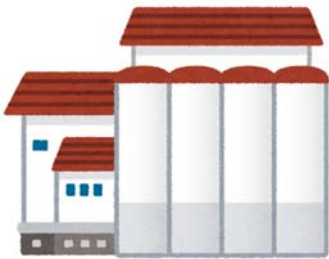
☆稲の草丈・刈り高さで「こぎ深さ」☆

- ①同じ刈り高さでも草丈が長いと“深く”なり、短いと“浅く”なる
- ②刈り高さが高いと“浅く”なり、低いと“深く”なる



コシヒカリのように丈が長い品種の場合、地際で刈り取ると「こぎ深さ」が深くなりすぎてしまいがちです。
また、地際近くで刈り取ると土や小石が混入したり、コンバインの刃も傷めてしまいます。適切な調整でもったいない収穫ロスを減らしましょう！

☆乾燥・調製のポイント



①午前の収穫は特に注意！朝露により粃に水分むらがあるので、通風乾燥を行ってから火力乾燥に移りましょう。

②仕上げ水分 14.5～15.0%を目標に！過乾燥に注意！

※但し、備蓄米の水分は15.0%までです。15%を超えると備蓄米としての検査ができません。

③粃すり時の温度に注意！

粃すりは、肌ずれ防止のため粃の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。

④ロールの幅を再確認！

胴割れ、碎米、肌ずれ、粃の混入を防止するため、ゴムロール間隔は0.8～1.2 mmを基準に脱び率が80～85%になるよう調整しましょう。

⑤量目不足に注意！

高温時は出荷までの間に乾燥が進み量目不足の発生する可能性が高くなります。水分 14.5～15.0%に仕上げ、量目は規定量（紙袋の場合 30.5 kg）以上をお願いします。

* 乾燥機張り込み時の水分を確認のうえ、下記表を参考に送風温度を調整して下さい。

張り込み時粃水分	28%以下	24%以下	18%以下
乾燥温度	40℃以下	50℃以下	初めは循環通風。水分ムラ解消後乾燥温度を低めに設定して本格乾燥。

米は袋に入るまで確認の徹底を！粃混、肌ずれなどは丁寧な調製で防げる格落ちです。もったいない格落ちをゼロにしましょう！